

# 志木二中だより

～気持ち良い あいさつ溢れる 志木二中～

令和3年度 6月号  
令和3年6月1日(火)  
志木市立志木第二中学校  
志木市館1-3-1  
TEL:048-473-2379

## 「大器晩成」大いにけっこう

校長 本 庄 真

今、教育実習生が来て学んでいます。3人が本校の卒業生で「7年前と今、志木二中はどう変わった？」と尋ねたところ、3人が口をそろえて「あいさつがすごい！」と言ってくれました。「自分たちの頃もあいさつはしていた気がするけど、朝の校門や校舎内でこんなにしっかりはできていなかった」と。先輩方が認めてくれています。目指す学校像『気持ち良い あいさつ溢れる 志木二中』となるよう、引き続きみんなであいさつを交わしていきましょう。

5月20日、21日に中間テストがありました。1年生にとっては初めての定期テストになりました。すでに全教科の答案が返ってきていることと思います。前日の19日、放送による学校朝会があり、そこで私の方からテストに向けての心構えを話しました。

①「正々堂々とテストに向き合うこと」正々堂々というと不正行為をしないことのように受け取られますが、それだけでなく、テストを終えて正しく振り返り、例えば結果が悪かったとしても堂々と向き合うこと。どこに問題があったのか、勉強の仕方が正しかったのか、次のテストに向けどうしたら伸びるのか、そこをきちんとやるのが大事であると話しました。1か月後にすぐ期末テストです。

②「他人と比べず以前の自分と比べよう」学年で同じテストを受けていますので、どうしても〇〇が何点だった、5教科合計で何点だったと友達同士で点数を比べがちです。そこで一喜一憂するのではなく、前回のテストと比べてどうだったか、努力が成果に結びついたのか、自分自身を振り返るサイクルを身につけるよう話しました。本校では、学年順位は、本人が知りたいと考え、聞かれたら答えるようにしています。

「学生の本分は勉強である」と言われますので、個々に学力をつける努力をすることが重要であることは言うに及びません。しかし、テストの点数が上だったからといって人を見下したり馬鹿にしたりするのは間違っているということも話しました。学力は人としてのある側面であり一つの個性とも言えます。そこが不得意でも他に良い面がたくさんある人もいます。学力を含め、今はまだ発揮されていない能力が徐々に見えてくる場合が多いです。「大器晩成」という言葉があります。大きな器を作るのには時間がかかるということから、偉大な人物は大成するのに長い年月を要し、往々にして人より遅れて頭角を現すということなのです。周りがゆっくりじっくりと待つことも大事なことがあると思います。